

新名神高速道路

町内に IC 設置
 新四日市 JCT 22.9 km
 亀山西 JCT
3月17日に開通

長年の計画がついに実現

3月17日、町内において建設が進められていた新名神高速道路（近畿自動車道名古屋神戸線）の新四日市ジャンクション（JCT）と亀山西JCT間の22.9キロが開通しました。この道路はかつて第二名神自動車道という名称で基本計画決定され、それから約30年の歳月を経て完成しました。町内では初となる菰野インターチェンジ（IC）が設置され、ICの案内標識には訪れた人に地名が浸透するように「菰野湯の山」と表記されています。

菰野ICは同日16時から供用開始され、新しい道路を通行するために多くの車両が集まりました。IC周辺では湯の山温泉の関係者などが通行する車両に向かって手を振り、訪れた人を歓迎しました。この高速道路は中京圏と近畿圏を結ぶ新たな日本の大動脈として

国の経済発展を担う重要な道路です。新名神高速道路と東名阪自動車道によるダブルネットワークの形成により、災害時の復旧および支援ルートが確保されます。また、交通が分散することで、年間1200回以上渋滞が発生している東名阪自動車道の四日市JCTと亀山JCT間の渋滞緩和（約9割削減）も期待されます。



▲石井啓一国土交通大臣、鈴木英敬県知事、柴田孝之町長ほか沿線市町長が参加して鈴鹿PA付近で行われたテープカット



▲菰野 IC の供用開始を待つ車両と歓迎する湯の山温泉の関係者



▲三滝川にかかる菰野第二高架橋

工事変遷写真

消防署付近



菰野生産森林組合周辺



菰野 IC 付近

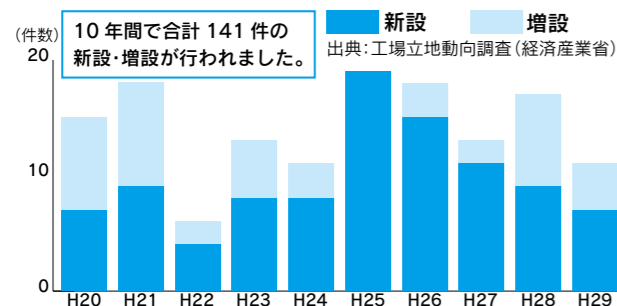


道路開通によるストック効果

高速道路の開通に伴い、地域産業のストック効果が期待されます。安全で円滑な物流により町内の企業立地等が増加し、地域産業の活性化や雇用の拡大などが見込まれます。また町内観光施設へのアクセスが向上し、観光客数の増加も期待されます。

？ ストック効果とは

社会資本（道路空港、橋、上下水道など）が整備され、機能することで得られる中長期的な効果（移動時間の短縮や快適性の向上、民間投資の誘発など）。



▲北勢地域の工場立地動向（新設、増設）

